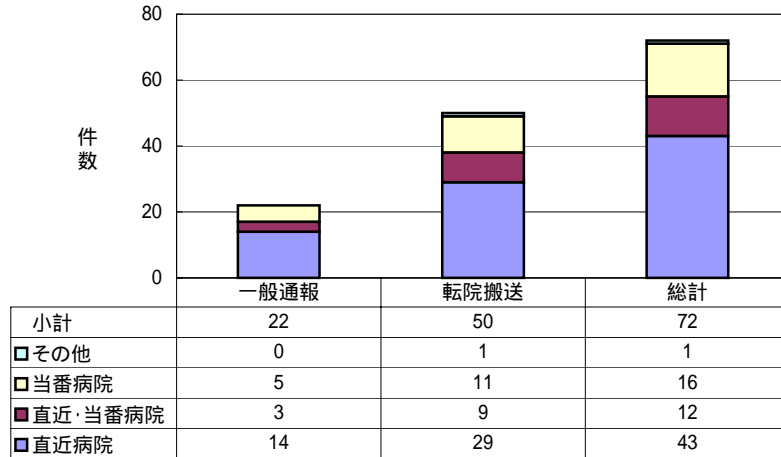


東京都母体救命搬送システムによる搬送事案（分析結果）

平成21年3月25日～平成22年8月31日報告受理分 72件

1 搬送の種類

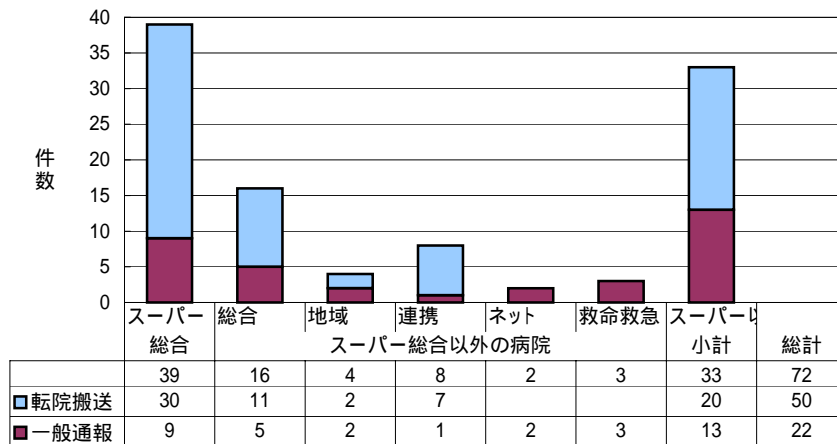


一般通報が22件、転院搬送が50件で、転院搬送が一般通報の2倍を越えている。

一般通報のほとんどが直近病院に搬送されており、転院搬送も3分の2以上が直近病院（当番含む）に搬送されている。

なお、この直近病院には、第一当番以外のスーパー総合周産期センターに搬送された事案も含まれる。

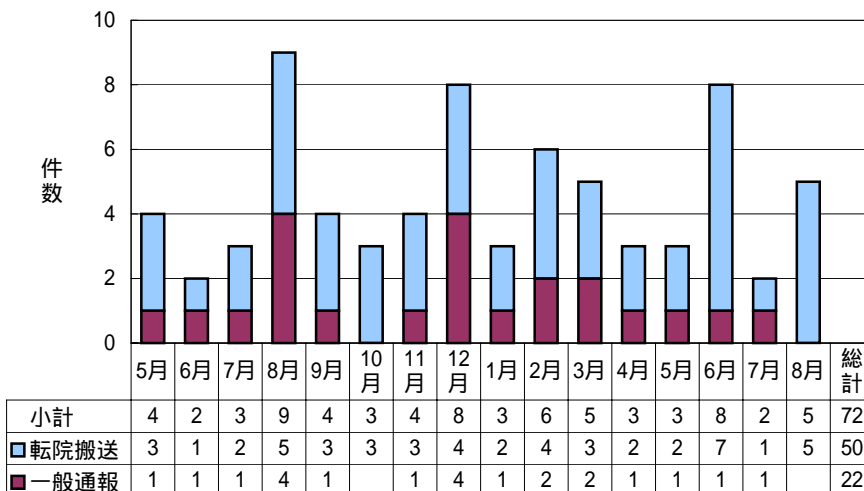
2 病院の種類



スーパー総合周産期センター3病院には、転院搬送では30件、一般通報では9件、計39件が搬送された。

また、救命救急センターや第一照会先病院となっている周産期母子医療センター、周産期連携病院には、転院搬送20件、一般通報13件が搬送された。

3 月別（搬送の種類）

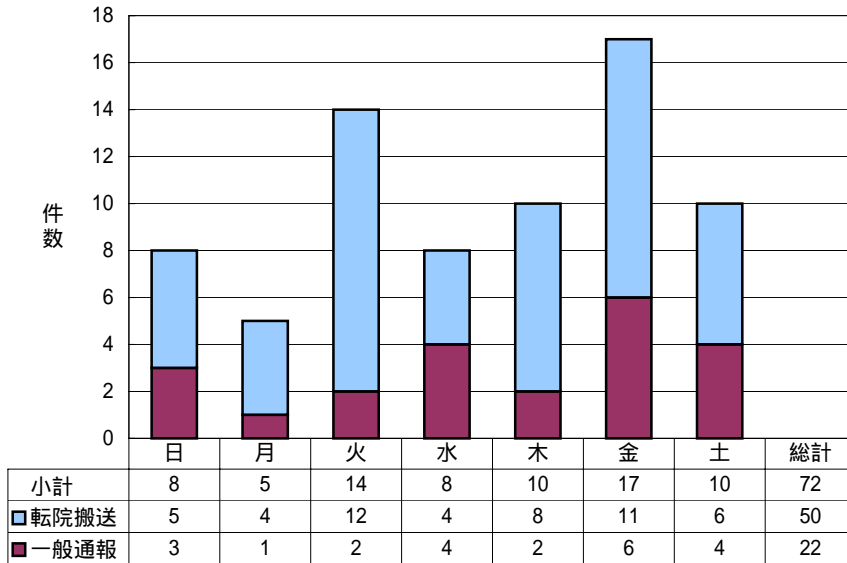


平成21年3月25日から運用したが、3月及び4月は事案はなく、5月以降から事案が報告された。

月ごとにばらつきがある。

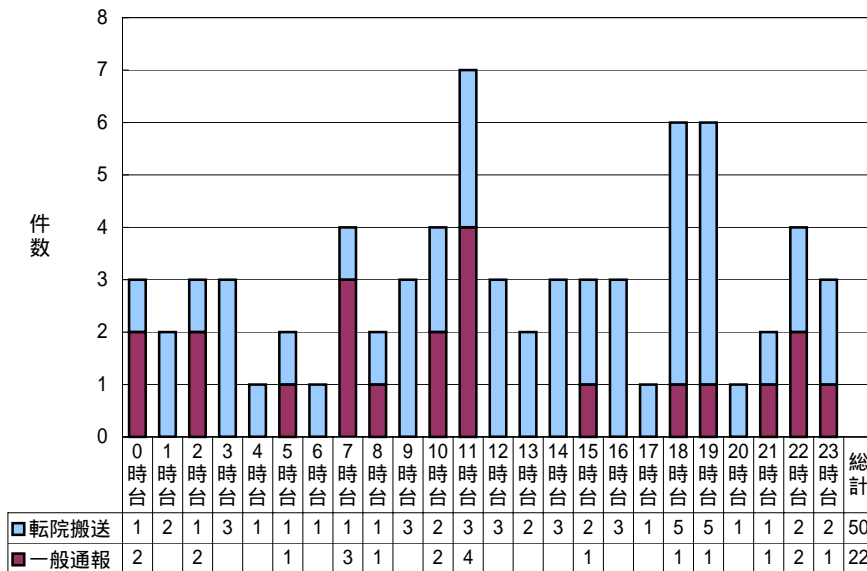
どの月も半数以上が転院搬送であるが、12月は一般通報も半数あった。21年10月及び22年8月は、一般通報はなかった。

4 曜日別（搬送の種類）



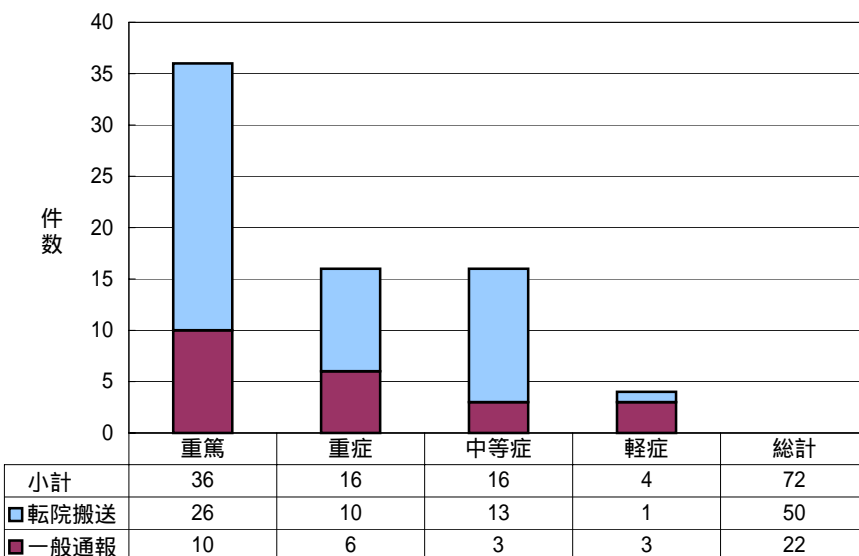
転院搬送、一般通報合わせて金曜日最も多い。
 転院通報では、金曜と火曜日が多くなっている。

5 時間別



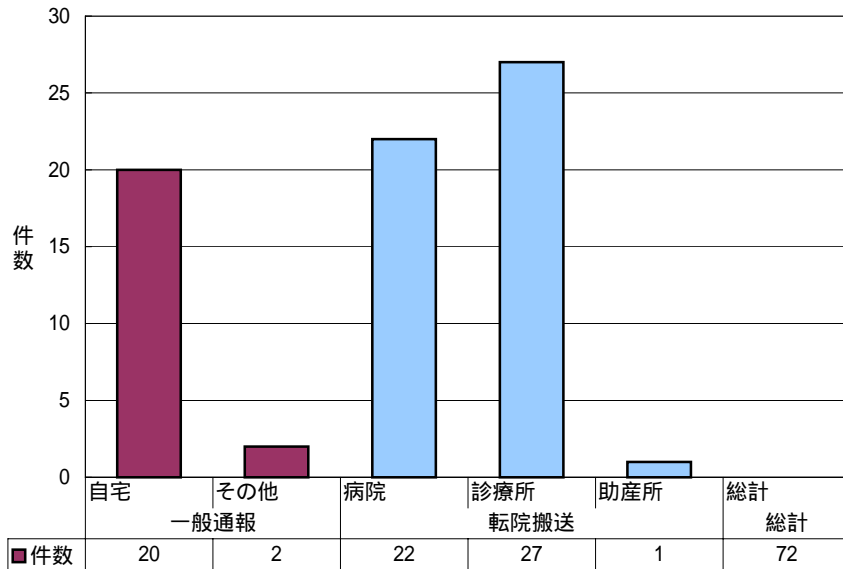
覚知の時間別では、転院搬送では、18時、19時台が多い。
 一般通報では、夜中や明け方の時間帯も多いが、11時台も多い。

6 重症度（病院報告）



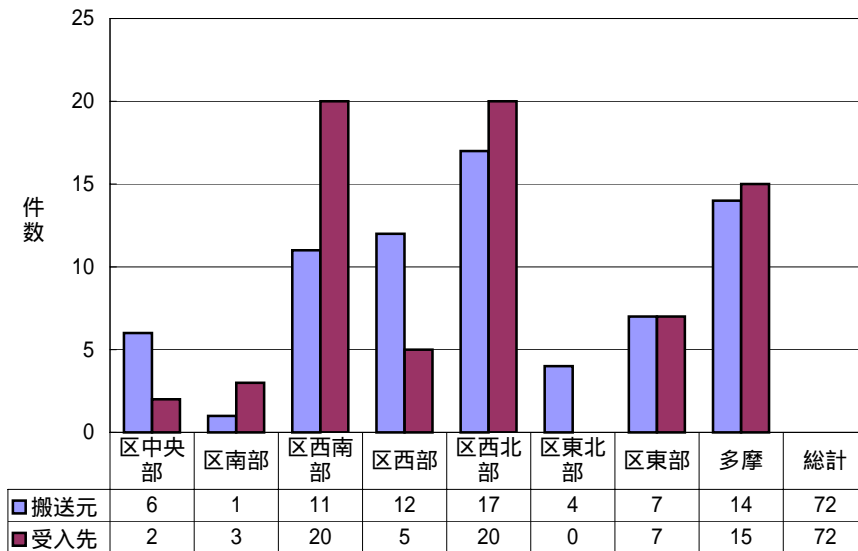
病院で確定診断が出てからの重症度では、重篤が36件、重症が16件であり、72件中52件（72%）がスーパー母体救命に相当すると考えられる。
 重篤と中等症では転院搬送が多く、一般通報での軽症もあった。

7 搬送元医療機関等



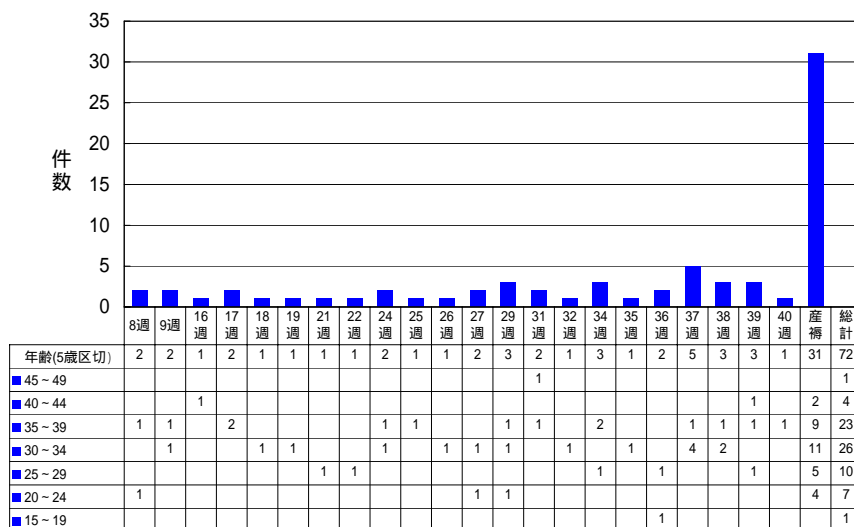
一般通報はほとんどが自宅からの搬送である。
 転院搬送では、病院や診療所からの搬送が多く、助産所からは1件であった。

8 ブロック別搬送元及び搬送先



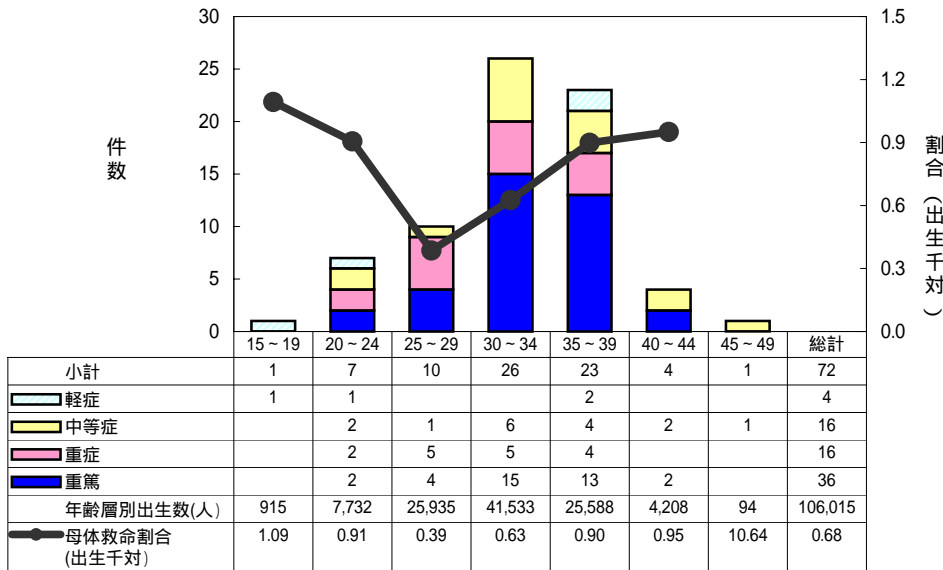
発生は、多摩部が最も多い。
 受入れブロックでは、区西南部が多い。
 多摩ブロックでは区部のブロックからの搬送を受入れている。
 区西部では、搬送元となる事案が多く、区南部や区東北部は搬送元となるケースは少ない。

9 週数



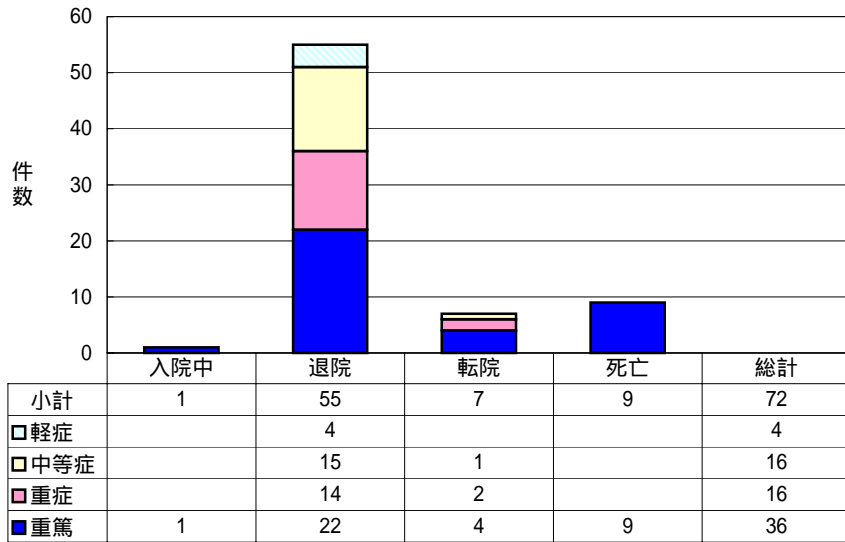
産褥が31例で最も多く、正期産である37週以上が12例であった。
 34週以降37週未満が6例、22週以上34週未満が13例、22週未満が10例あった。
 週数の少ない母体もあり、児がNICUを必要とする事例もある。
 なお、8、9週は子宮外妊娠や中絶後等であった。

10 母の年齢(重症度別)



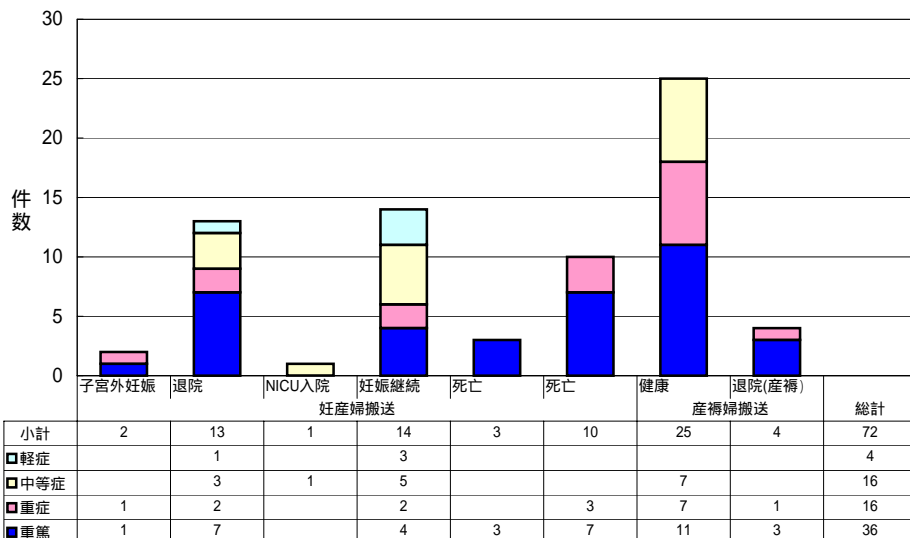
30歳代や40歳代といった年齢が高いほうが、重篤・重症の例が多い。
 母の年齢層別の割合から見ると、45歳以上の出生千体10.64を除くと、30歳代後半のスーパー母体搬送が、出生数千対0.90と多く、20歳代後半は、出生数千対0.39と少ない。
 なお、年齢別出生数は、平成20年人口動態統計の数値である。

11 母の転帰(重症度別)



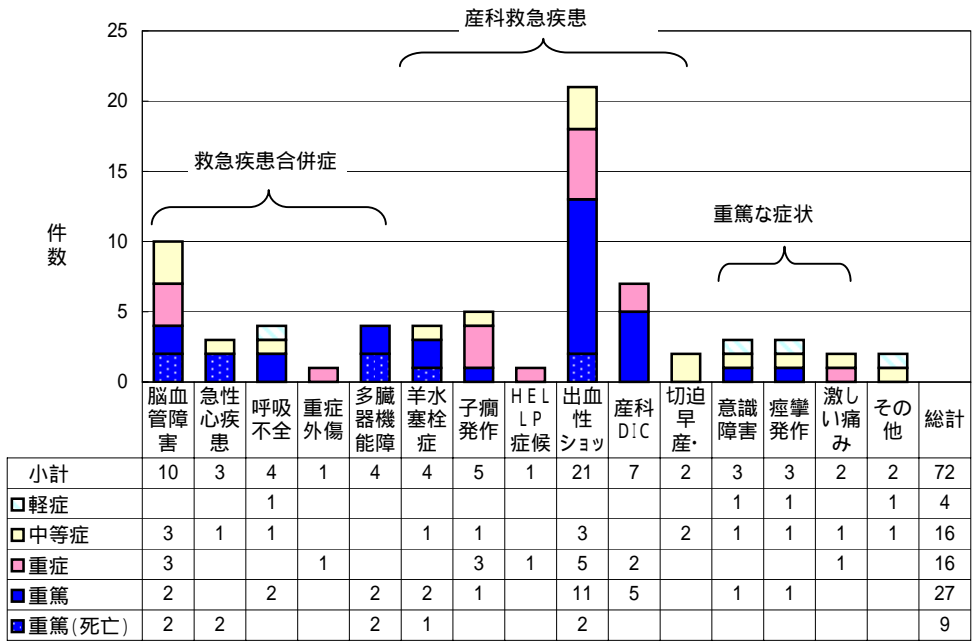
退院が55例と最も多かった。
 7例が転院した。重篤のうち9例が死亡した。

12 児の転帰



産褥の搬送が多いことから、前医療機関等で娩出後、児が健康という事例が25例あった。
 母が重篤又は重症であっても、児は退院・妊娠継続した事例が多い。
 一方で、胎児死亡となった事例が5例あった。
 なお、10週未満の胎芽も児として掲載した。

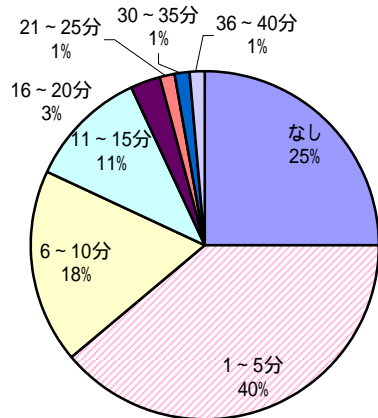
13 スーパー母体救命対象症例別疾患（診断後）



入院後診断された疾患名では、出血性ショック、脳血管障害が多く、これらは重篤や重症の事例が多い。重篤・重症の事例では、脳血管障害、急性心疾患、多臓器機能障害といった、救急疾患合併症と、出血性ショック、産科DICが多かった。また、死亡事例は、救急疾患合併症が多い。

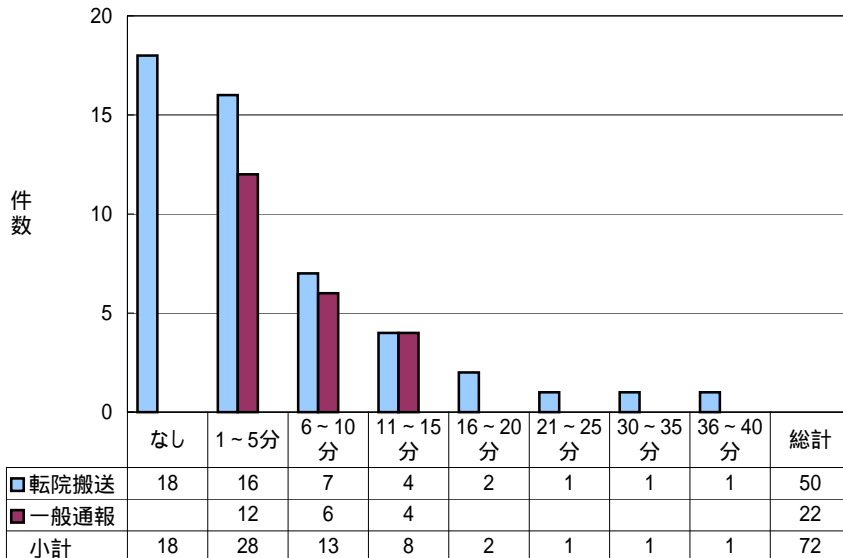
14 病院選定時間（平均8分、選定なし含まず）

(割合)



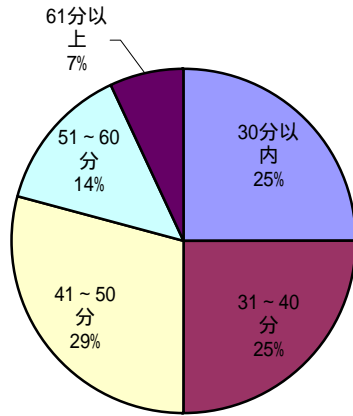
病院選定時間の多くは15分以内であった。すでに搬送先が決定していた事案を除くと、選定に要した時間は、平均7.9分であった。

(分布)



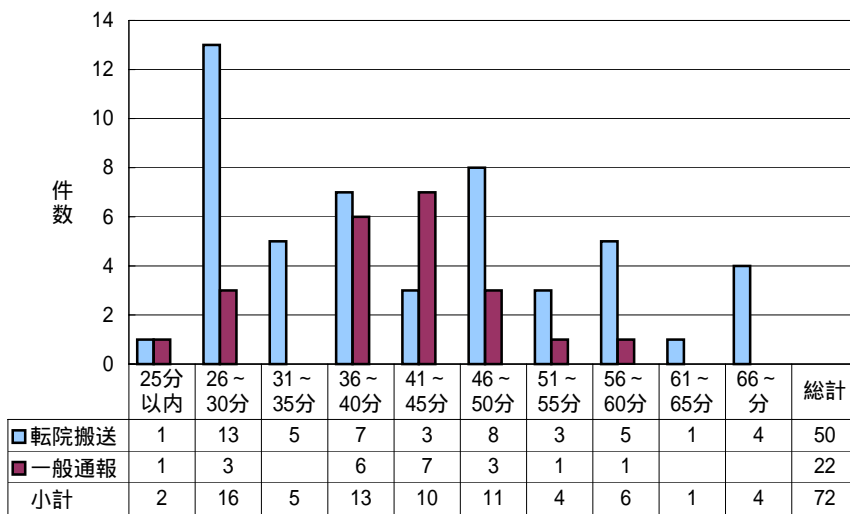
15 入院まで(覚知～病着)の時間 (平均43分)

(割合)

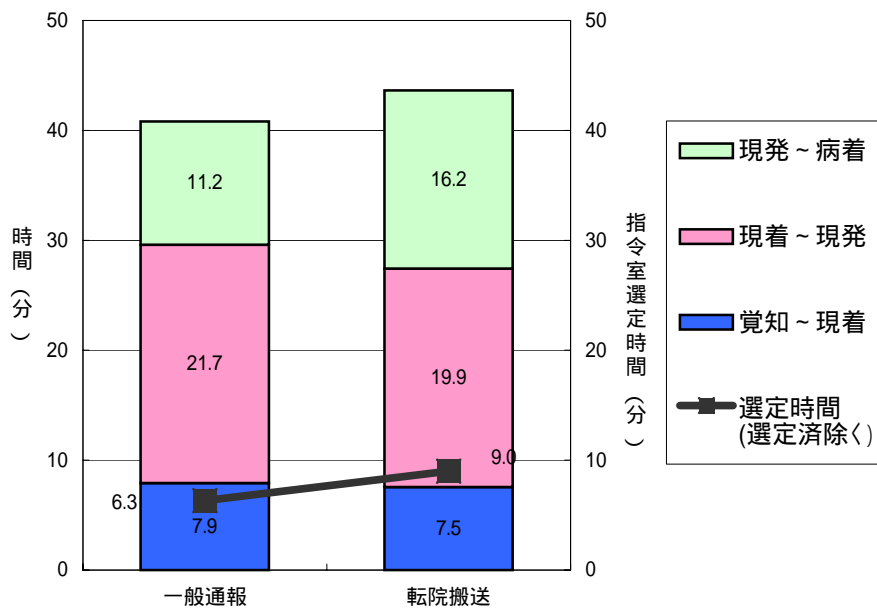


覚知から病着までの時間の多くは50分以内であった。
 ただし、転院搬送で60分を超えるものもあった。
 時間を要した理由は、処置中であつたり、医療機関同士の連絡に時間を要したためであった。

(分布)



16 搬送(覚知から病着まで)の平均時間と病院選定平均時間



搬送時間と指令室での病院選定時間を見ると、転院搬送では一般通報に比べ、現場での時間が短い一方、現場から病院までの搬送時間が長くなる傾向がある。
 転院搬送では、すでに搬送先病院が決定している場合は指令室での選定時間がないが、選定をしたものについては、病院決定まで平均9分程度となっている。